

謝辞

本稿を執筆する際には、非常に多くの方々のお世話になった。東京経済大学助教授の山田晴通氏からは、文献情報を調べることに以上に、当事者（中野）のご家族などの関係者を見つける作業が必要なこと、近代大衆音楽をテーマに執筆活動をなさっている菊池清麿氏からは、戦前の資料の所蔵のありかを、Eメールでの回答で教えていただいた。また、インターネットを通じて知り合った、SPレコードコレクターのザリガニ氏や猫島さんからもEメールを通じて、中野に関連する資料の所在のありかを教えていただいたし、同じくT&T氏、石川智文氏、骨董祭を通じて知り合ったB氏からは、中野に関連する音源も送っていただいた。また、愛媛県大洲市役所、大洲市立博物館、愛媛県立大洲高等学校からは、郷土に関連する資料を、神戸新聞編集委員の山崎整氏からは、大量の神戸新聞の連載記事を送っていただいた。また、コロムビアレコード制作部のD氏には、中野のご長男の中野忠彦氏を紹介していただき、コロムビア社の古い資料を見せていただいた。

中野忠彦氏の証言は、大変貴重であった。八月、十月、十一月、十二月と、筆者が上京した際に面会していただき、電話でも何回も協力していただけた。また、日本のジャズ評論家の瀬川昌久氏も紹介していただいた。瀬川昌久氏からは、当初国立国会図書館でしか視聴・閲覧できないと思っていたLPのセットを、ありがたくもお借りできた。貴重な音源の他に、このLPのセットには、瀬川氏が監修された解説書があり、この解説書が非常に役に立った。もちろん、筆者の所属する大学の研究室の羽賀祥二教授、稲葉伸道教授、古尾谷知浩助教授、院生の方々からも、温かく見守っていただき、日本史学としての卒業論文の書き方のご指導をいただいた。

この他にも多くの方々からご協力をいただいた。これらの方々がいなければ、本稿の完成はなかったであろう。これら、多くの方々のご協力に、心よりの感謝を申し上げねばならない。